

DATA

名 称 大阪府立中之島図書館 本館
所在地 大阪市北区中之島 1-2-10
完 成 明治 37 年
設計者 野口孫市

温故

知新

レトロ建築を歩く

第 19 回

大阪府立中之島図書館 本館



まるでギリシャ・ローマ時代の
神殿を思わせる大阪府立中之
島図書館本館。明治 37 年（1904
年）に完成した建物である。

正面玄関は巨大な円柱と梁、その
上に三角形のペディメント（建物の
正面上部に設けられた山形の部分）
が存在感を放つ。

円柱の柱頭飾りをはじめ、アカン
サス（葉アザミ。ギリシャの国花）
をモチーフとした文様がふんだんに
添えられている。

正面からは見えないが、ペディメ
ントの後方には青銅色に輝くドーム
が設けられている。青銅製の美しい
半球体は、ローマ時代の教会建築を
彷彿させる。

正面玄関と相まって、建物全体が
神殿建築の宝物庫をイメージして設
計されたともいわれる。

この建物を設計したのは、住友家
の建築技師長であった野口孫市。建
物の施主である住友家十五代当主、
住友吉左衛門友純の命により設計に
あたった。

友純は、明治 30 年の欧米諸国への
旅行の際、当地の富豪が文化的・社
会的事業に私財を投じる姿に感銘を
受け、帰国後、大阪府に図書館とし
ての建物一式と図書購入用の基金を
寄付したという。



ペディメントの後方には、青銅製のドーム。
内側には円形窓のステンドグラスが設置されている



吹抜けには大階段が広がる

3階の記念室は、明治・大正期の調度が残る



「建築資金」ではなく、図書館としての建物自体を寄付したのが、欧米で本場の建造物に触れた友純の美意識の現れともいわれている。

建物内部は、ドームを見上げるように、吹抜けの空間が広がっている。外観とは異なり、木材が多く用いられ温かみを感じさせる。

吹抜けの中心には、回廊と大階段が配されている。左右対称で、上から下に向かって緩やかに広がりを見せる曲線が美しい。

ドームの中心からは、明かり採りのための円形窓に設置されたステンドグラス越しに柔らかな光が注ぐ。

3階の記念室は、明治・大正期の調度やしつらえが多く残されている。美しい半円を描く扇窓（ファンライト）が、印象的だ。

大阪府立中之島図書館は、大正11年（1922年）に増築された左右両翼の2棟と合わせ、昭和49年（1974年）に国の重要文化財に指定された。